

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ・スマイル(笑顔のまま)です。

Stay Smile



ステイ・スマイル

Stay Smile 農業の未来へ向かって～新たな力～

町新規就農支援事業

◆五味 哲さん (乙事)

6年前、父が会社勤めを早期退職し稲作に本格的に取り組み始め、時を同じくして私も諸事情により会社を離職し、父と共に稲作を始め、順調に規模拡大を図り経営収支も個々に管理するようになりました。

しかしながら、水稻への補助金の減額で機械・設備投資の償却に大きな誤算が生じ、更に米価が下落し、日本人の主食たる米がペットボトルの飲料水より安いという状況に疑問を感じています。

経費削減、良質米の生産を目指すべく、高冷地で疎植農法に取り組み始め、一定の実績を上げ効果には好感触を得はじめましたが、米価下落に追いつくまでの経費減には至っていません。

また、中山間地での土手草刈りは一番の負担で、規模を拡大すれば必ずこの問題がつきまと、この収益性の無い作業を何とかしなければ、とは思っていても名案は浮かびません。

美味しい米なら多少高価でも消費者は購入しており、そんな米を作りたいと思い試行錯誤をしても高冷地のアキタコマチでは限界があります。北海道が新品種で確固たる地位を築いたように、富士見町でも良食味米の開発を強く望んでいます。今後は稲作を中心とした新たな作物を模索しつつ、いつかは努力が報われる農業にしていければと考えています。



Stay Smile 月神話を発掘する

井戸尻考古館 ☎64-2044

昭和33年の井戸尻遺跡の発掘をきっかけに、富士見町域ではいくつかの遺跡が発掘されました。そこにかかわった人々を振り返りながら紹介します。

藤内遺跡②(昭和59年)

藤内遺跡の4次におよぶ調査のなかでも、昭和59年の発掘はたいへんな成果をあげます。破壊を前提にやむを得ず行われた、

“記録保存”という名目の発掘調査でしたが、スタッフの胸には、確かに“学術目的”がありました。

小雪から冬至にかけて井戸尻考古館の武藤雄六さん小林公明さんに考古・民俗学者の田中基さんも加わり、地元の方々と発掘が行われます。このころ小林さん、田中さんは縄文時代の精神文化に迫る研究を進めていました。土器の様々な文様を意味のある図像として読み解き、当時の精神的な柱のひとつに“月”を中心とした太陰的世

界観があったことを究明しようとしていたのです。

とりわけ32号と名付けられた住居は、驚くべき状況でした。土器の墓場、といつてもいいほど住居に遺された大量の器物の中に、神像筒形土器がありました。復元した武藤雄六さんが「最後までこんな形になるとは、思わなんだなあ。」と振り返るこの土器は、列島を代表する国宝級の文化遺産です。

発掘の最終に冬至の翌朝の朝日が昇ると32号住居址の入り口からまっすぐ差し込みました。復活した太陽の光に感應して、すべての器物が復活・再生するように作られた特別な住居だったのでしょう。



▲雪の中の発掘(昭和59年)



▲32号住居址の土器

富士見町子ども読書活動推進計画（第2次）

【ふじみ子どもの本の会の活動】

- * ブックリストの作成 * 土曜のおはなし会 * 保育園や学校での読み聞かせ
 - * 出前おはなし会 * 図書館イベント協力 * 読み聞かせグループ立ち上げへの協力
- ☆子どもたちに本は楽しい！おもしろい！役に立つ！と知ってもらい、心豊かに育ってほしいと願い、読書ボランティア活動を行っています。

【主な活動の紹介】

年間を通して、町図書館おはなしの部屋での土曜日のおはなし会（第4土曜以外）を行っています。テーマに沿った絵本選びから読む順番や手遊びも入れる等の大まかなプログラムを組み立てますが、当日参加された子どもたちの人数や年齢によって絵本を差し替えることもあります。異年齢のお友だちと一緒におはなしを聞くことで、保育園や学校とは違った楽しみ方が経験でき、小さな赤ちゃんもおかあさんにだっこされながら、絵本や大きい子の様子を見つめていることがあります。

町図書館主催のイベント（子ども読書の日スペシャル・図書館まつり・クリスマスおはなし会）にも協力して、大型絵本やパネルシアター等を使って、大勢の子どもたちと一緒に楽しむ大きなおはなし会も行っています。

保育園・学校だけでなく、要望があれば、地域での出前おはなし会も行いますので、お声がけください。

平成26年度、会員有志で多くの絵本を読み合いながら作成した、乳幼児向けの「おすすめのブックリスト」が図書館に掲示してありますので、絵本選びの参考にしてください。

絵本や児童書に興味のある方、子どもが好きな方、一緒に活動しませんか？お問合せは ☎62-7930 富士見町図書館へご連絡ください。



Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

子育てひろばが必要な理由

富士見町地域子育て支援の拠点として、NPO法人ふじみ子育てネットワークが町から事業委託を受けて運営している「子育てひろばAiAi」が誕生して10年が経ちます。その間延べ3万組弱の乳幼児親子の交流、育ち、学び、息抜きの場としてささやかながら地域に貢献してきました。始めの頃は保育園と間違われることが多かったくらい、乳幼児とその親が自由に過ごす場をわざわざつくることの必要性が理解されませんでした。今のお母さんは甘えている、私たちの時はひろばなんてない中で大変でも自分たちで子育てしてきた、と辛口の意見をいただきました。



しかし、少子化対策が叫ばれる中、全国に草の根的に広がる子育てひろばの活動の必要性が認められ、各自治体で取り組むよう法律で義務化されました。多くの親世代が核家族で育っている今、子育ての知恵や習慣が伝承されにくくなっている現実や、子育て世代が出会う機会が生活スタイルの変化の中で減少してきていることなどから、子育てひろばがその環境を補う役割を果たしているとわかったからです。

AiAiの利用者からは、実家のようにリラックスできる、子ども同士の関わりが持てる、親が友達を作り子育てを助け合える、というような声が聞かれます。個々の家庭の子育ての日常は地域ではなかなか意識しにくいかもしれません。でもAiAiには、小さな命を大切に育む大人の笑顔や涙、喜びや悩みにあふれる日常が広がっています。その日常を利用者同士やスタッフが共有しています。もちろん不特定多数の親子が利用する中で、理想通りに進まないこともありますが、AiAiスタッフはそのことをも学びの機会と捉え、「お互いに助け合う」「人と人をつなぐ」「一人一人を大切にする」を念頭に置き、丁寧に対応していくことで、子育てを通した地域づくりにさらに貢献したいと願っています。

